

陳 情 第 2 号	平成23年2月23日受理
付 託 委 員 会	産業都市常任委員会
件 名	「新川周辺地区都市再生整備計画」の説明会開催と計画見直しを求める件
陳 情 要 旨	
<p>私たちは、「新川周辺地区都市再生整備計画」（以下「新川計画」という。）の中には税金の無駄遣いではないかと疑問視せざるを得ないものがある、と感じています。こうした疑問を除き、市民の総意に沿った計画実現のために、図書館、市民ギャラリー、総合グラウンド、ふれあいの農業の郷など項目別に、市民が本当に必要と考えているかどうかを明らかにしてほしいと考えます。</p> <p>八千代市では、通常最低10～20億円は必要とされる財政調整基金が約1億8,000万円（平成21年度決算）という財源枯渇状態にあります。加えて、西八千代北部区画整理事業に100億円もの市税投入が予定されようとしています。こうした財政状況の中で八千代市は、国からのまちづくり交付金（5年間で21億円）が交付されることを理由に、平成22年度から5年間で総経費71億円（市税など市の負担50億円）を要する「新川計画」を立て、すでに初年度事業を始めています。</p> <p>現職と3人の新人で争われた今年の市長選の最大の争点は、やはりこの71億円の「新川計画」の是非と、深刻化する市の財政危機をどう立て直すかであったことは疑いの余地がありません。</p> <p>市長選の結果は、豊田市長の得票率35.5%、計画の見直しを主張した3人の新人の得票率64.5%でした。市民の3分の2は豊田市政を支持せず、したがって計画にも賛成しなかったというのがこの数字の意味でありましょう。市長と議会はこの審判を虚心に受けとめていただきたいと思います。この審判を踏まえ、財政破綻によって市の将来を危うくするかもしれない「新川計画」を市民目線で見直していただきたいと思います。そのためにも今、「新川計画」の事業別内容を経費や財源、財政を含めて市民に説明してほしいと思います。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「新川計画」の事業別内容について、経費や財源、財政を含めて、市民への説明会の早期開催を求めます。 2. この「新川計画」を見直すことを求めます。 	

